



**地域とともに歩み、
地域の未来を拓く学校**

いしべっ子

湖南省立石部小学校校報第121号
令和元年(2019年)5月16日
文責：校長 法山 由紀子

校長室にある創立120周年記念誌の「石部小学校のあゆみ」には、「明治7年(1874年)5月10日。公立石部学校創始、開校式をあげた(校舎は旧石部農協あたり)。この日を石部小学校の創立記念日に制定」と記されています。

このように、先日5月10日には創立145年目を迎えた湖南省立石部小学校。新しい令和という時代にあっても、「地域とともに歩み、地域の未来を拓く学校」の理念のもと、子どもたちが人とのつながりの中で、「自尊感情」を高め、「えがお」「いのち」を輝かせる・・・そんな学校を家庭・地域とともにつくっていきたいと思っています。どうか変わらぬご支援をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

6年が活躍 「1年生をむかえる会」大成功！

4月25日(木)に行われた「1年生をむかえる会」は、最高学年となった6年生が企画・運営に大活躍。1年生も大喜びでとても温かなよい会になりました。

その成功の裏には、それまでの期間に「どうしたら1年生が喜んでくれるだろう」ということを6年生が精一杯考えたり、悩んだりしながら工夫を重ねる姿があったのです。

「1年生をむかえる会」は、体育館での会だけではなく、何度も1年生の教室を訪ね、ペアと仲良くなることからのスタートでした。



前日のリハーサルでは、まだまだ自分達でうまくいかなかったところをどう修正するか、ぎりぎりまで話し合う姿が見られました。

こういう経緯があったからこそ、本番の成功は、6年生にとって自信となり、次への大きな力となりました。そんな6年生の感想を抜粋してみます。



- 1年生がどんな招待状をもらったらうれしいかを考えて、招待状にクイズを入れました。持っていったとき、みんな喜んで考えていて、入れてよかったなと思いました。
- 1年生が楽しんでくれるように6年生全員で力を合わせて行動しました。
1年生を迎える会が始まった瞬間、6年生の「静かにしよう」という言葉でぱっと静かになったのでうれしかったです。練習の時に、「どうしたらいいかな」「こうしたらいいと思うよ」とみんなで話し合ったのがよかったなと思いました。
- 自分の出番じゃないときも、6年生全員で作る会だから、他の出し物を盛りあげることをがんばりました。
- 1年生に「楽しかった?」と聞いたら、めちゃくちゃ楽しかったと言ってくれてすごくうれしかったです。初めは1年生と話しにくかったけど、なかよくなって、ずっと話していたら、時間があっという間にすぎてもっと話したくなりました。
- 終わったあとで、先生やみんなに「ありがとう」「おつかれさま」などと言ってもらいました。やってよかったなあ、がんばってよかったなあと思いました。

「校庭の芝生を育てる会」の皆様 今年度もお世話になります

青々とした芝生の運動場で、元気いっぱい活動する子どもたち。足元を感じるの柔らかな感触。草の青い匂い。

こんな素晴らしい環境を整えてくださる「石部小学校校庭の芝生を育てる会（以下「育てる会」）」（会長：古賀和男様）による活動が今年度も始まりました。

学校運営協議会（CS）、PTA、石部学区まちづくり協議会、スポーツ少年団の4団体で構成される「育てる会」が、昨年度来、市より業務委託を受け、全面的に芝生の維持管理を行ってくださっています。



休み時間は運動場で元気に活動！

5月11日（土）には、各団体の代表の方にご参加いただき、芝刈り機等の使い方や芝生の刈り方の講習会を実施していただきました。当日は、三吉博之様による丁寧なレクチャーを受けながら、実際に芝刈り機に乗って芝を刈ったり、肥料を散布したりしていただきました。

これから、ますます暑さも厳しくなっていく中、芝の生長も勢いが増してきます。そんな中で大変な作業となりますが、どうかよろしく願いいたします。

芝生を通じてこのように多くのみなさんがつながってくださり、子どもたちのためにお力添えをいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

「読書」のススメ

～読書好きな「いしべっ子」を育てるために～

今年度大事にしたい教育実践の一つに、子どもたちの読書活動の推進があります。本校では、「読書」を「まなびの土台」の一つと位置づけ、「朝の読書」を従来より進めています。また、図書ボランティアさんが、学校図書館のすてきな飾りを作ってくださったり、読み聞かせをしてくださったりといった活動を長年続けてくださっています。さらに、市としても、学校司書を各小中学校に配置して、読書環境を整備してくださっています。

このような充実した環境のなかで、今年度は、昨年以上に、子どもたちと本をつなぐ取組を進め、より多くの子どもたちが本の魅力を感じてくれることを目指していきます。

「子どものころに本をたくさん読んでおくと、その時は分からなくても、大人になってから何かと結びつくことがある。そんな経験が多いほど人生は楽しくなる。」

（出口治明著「教養は児童書で学べ」より）

わくわくどきどきする本、ほっこりする本、スカッとする本、元気になる本、涙が止まらない本・・・そんな本との出会いは、きっと人生を豊かなものにしてくれることでしょう。

ご家庭や地域でも、子どもの頃に会って心に残っている「本」、忘れられない一冊のこと、ぜひ子どもたちに伝えていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「えがく」お世話わけ



♥生活科の「学校たんけん」の学習で、1年生が校長室を訪ねてくれました。「わあ。写真がいっぱいや。ほくのおいしいちゃんもいるかなあ？」 「・・・」

♥子どもたちの元気な「おはようございます」に、毎朝パワーをもらっています。

「これ、あげる。」

子どもがくれた小さなお花が、私に幸せを運んでくれました。

「さあ、今日も笑顔で一日がんばるぞ！」